

ASEAN加盟各国の情報通信相 日本とサイバーセキュリティでの連携推進

第18回「東南アジア諸国連合(ASEAN)情報通信大臣会合(TELMIN)」および第13回「日・ASEAN情報通信大臣会合(TELMIN+Japan)」を含む関連会合が、12月3-7日にインドネシア・バリ島のウブドで開催される。日本のTELMIN担当官庁である総務省は、ASEANとのサイバーセキュリティでの協力・連携強化を主導しており、10月16-17日には東京で、高級実務者による第11回「日・ASEANサイバーセキュリティ政策会議」が開催されている。来る13th TELMIN+Japanでも、サイバーセキュリティで日本が主導する連携施策やプロジェクトの推進・強化が主要な議題となる。こうしたサイバーセキュリティを含むICT(情報通信技術)分野での日本との連携をASEAN側で担う各国の情報通信担当相を紹介する。

日・ASEAN間のサイバーセキュリティ連携

総務省の10月26日付け報道資料によると、第11回「日・ASEANサイバーセキュリティ政策会議」で成果が確認・評価された、サイバーセキュリティ分野で日本が主導する連携施策やプロジェクトは次の通り。

(1) 日・ASEANにおけるサイバーセキュリティ脅威情報共有体制の構築・維持。インシデント発生時の国際連携手順の確認とそのための情報連絡演習及び机上演習の実施。

(2) 重要インフラ防護の実践的な取り組みや先進的・先導的な取り組みに関する情報交換。そのための「重要インフラ防護ワークショップ」の継続的実施。

(3) 「日・ASEANサイバーセキュリティ能力構築センター」(タイ・バンコク)の設立などサイバー分野の人材育成事業、および日・ASEAN各国の意識啓蒙活動の実施。

【人物データ・ファイル】

《インドネシア》18th TELMIN議長国

■通信・情報相 Minister of Communication and Information
ルディアンタラ Rudiantara



2014年10月のジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)政権発足時に現職(通信・情報相)に起用された。通信分野をはじめとする国営・民間企業の役員を歴任した事業経営手腕に加えて、金融市場に対する理解・分析力に優れていることがジョコウィ大統領に評価された。12月3-7日にインドネシア・バリ島のウブドで開催される第18回「東南アジア諸国連合(ASEAN)情報通信大臣会合(TELMIN)」・関連会合で議長(または共同議長)を務める(予定)。
*ソーシャルネットワーク(SNS)の利用では世界有数の国であるインドネシアでは、来年4月の大統領選の選挙運動が過熱化するに伴い、「フェイクニュース(虚偽情報)」に基づく政治対立や混乱が広がるのが懸念されており、ICT分野を所管する通信・情報省のトップとしての責任も重大になっている。

▼データ：【年齢】59歳(1959年5月3日生まれ)【生地】西ジャワ州ボゴール【学歴】(バンドン)パジャジャラン大学数学・自然科学部卒(統計学)/(ジャカルタ)経営教育開発大学(IPP)経営学修士(MBA)【経歴】[1996年] 通信大手「インドサット(PT. Indosat)」ジェネラル・マネジャー(事業開発担当)/国営セメント会社「セメン・グレシク(Semen Gresik)」副社長/[2006年] 公益事業会社「ペルサハアン・リストリク・ネガラ(Perusahaan Listrik Negara)」副社長/[11年] 国営通信会社「テレコムカシ・インドネシア(PT. Telekomunikasi Indonesia Tbk)」監査委員長/[12年11月] 「インドサット」社外監査役/[14年10月27日] (ジョコ・ウィドド内閣)通信・情報相(一現在)【歴任】インドネシア移動電話協会(ATSI)事務局長/国営電力会社PT PLN副社長。

《タイ》

■デジタル経済社会相 Minister of Digital Economy and Society
ピチェート・ドゥロンカウェロート(博士) Dr Pichet Durongkaveroj



2014年9月のプラユット現暫定内閣成立時に科学技術相として入閣したが、16年12月の内閣改造で同年9月に旧・情報通信技術省を改組して新設されたデジタル経済社会省のトップ(現職)に抜てきされた(横滑り)。同省の実質的な初代大臣。「Digital Thailand」というビジョンを掲げて、全国的なデジタル技術活用の推進役を担っており、日本とのITC分野での緊密な協力・連携に期待を表明している。

▼データ：【年齢】63歳(1955年9月7日生まれ)【学歴】(豪シドニー)ニューサウスウェールズ大学(UNSW)卒(工学士：電気工学)/(米テキサス州)トリニティ大学理学修士(太陽光エネルギー応用科学)/(米)ペンシルバニア大学博士(Ph.D.：公共政策・管理学)【経歴】ラームカムヘーン大学理学部物理学講師/タイ開発研究所(TDRI)科学技術開発プログラム研究員/国家情報技術委員会(NITC)理事/タイ知識ネットワーク研究所(KNIT)所長などを歴任/科学技術省国家科学技術・イノベーション政策委員会(STI)事務局長/[2014年9月] (プラユット内閣)科学技術相/[16年12月16日] (プラユット改造内閣)デジタル経済社会相(一現在)。

《マレーシア》

■通信・マルチメディア相 Minister of Communication and Multimedia
ゴビンド・シン・デオ Gobind Singh Deo



今年5月の総選挙での歴史的な政権交代によって成立したマハティール内閣で現職(通信・マルチメディア相)に任命された。10月上旬には、第5世代移動通信システム(5G)の試験運用をスランゴール州のICT産業集積都市サイバージャヤと首都クアラルンプール近郊の行政都市ブトラジャヤで開始する意向を明らかにした。
*マレーシアでは少数派宗教(信徒数約10万人)であるシーク教初の大。ナジブ前政権下での野党議員(当時)としての「戦闘的」な姿勢と、シーク教徒の氏名に含まれるシン(獅子)を振って「プチョンの小さな獅子」との異名をとる。

▼データ：【年齢】45歳(1973年6月19日生まれ)【生地】ペナン州【政党】民主行動党(DAP)：中執委副委員長・法務局書記【人種】インド系【宗教】シーク教【学歴】(英ロンドン)リンカーン法曹院卒/マレーシア弁護士資格取得【経歴】弁護士・政治家/[2008年3月総選挙] 下院議員に初当選/[18年5月総選挙] 下院議員に3選(スランゴール州プチョン選挙区：一現在、[5月21日] (マハティール内閣)通信・マルチメディア相(一現在)【家族】サンギータ(Sangeeta Kaur Sidhu)夫人との間に子供3人。

《シンガポール》

■情報通信相 Minister for Communications and Information
S・イスワラン S.Iswaran

今年5月の内閣改造で、7年半にわたって情報通信相を務めたヤーコブ・イブラヒム(Yaacob Ibrahim)氏(64歳)の後任として、通産相(産業担当)から横滑り



した(ヤコブ氏は公職から引退)。上級国務相時代からASEANの「エネルギー大臣会合(A MEM)」や「科学技術大臣会合(AMMST)」でシンガポール代表を務めてきたが、「情報通信大臣会合(TELMIN)」への出席は来る12月の会合が初めてとなる。

*シンガポール政府は2014年11月から、ICTを活用して、豊かな生活とデジタル経済を目指す「スマート国家」の実現に向けた複数のプロジェクトを進めてきた。しかし、今年7月、保健省管轄下の公的医療グループ「シングヘルス」のデータベースがサイバー攻撃を受け、約150万人分の個人情報流出する事態が発生。同(S・イスワラン)氏はサイバーセキュリティの責任者として、完全な対応策を導入するまでは、「スマート国家」構想に基づく一部プロジェクトを中断する方針を明らかにした。

▼データ：【年齢】56歳(1962年6月14日生まれ)【生地】インド・マドラス(現チェンナイ)【政党】人民行動党(PAP)【人種】インド(タミール)系【宗教】ヒンドゥー教【学歴】(豪)アデレード大学卒(経済学士：首席)/(米)ハーバード大学行政修士【経歴】内務省・教育省官僚/[1995年]通産省国際貿易部長/[96年]政府系「シンガポール・テクノロジー社」取締役(戦略開発)/[97年1月総選挙]国会議員に初当選/[98年]政府系投資会社「テマセク・ホールディングス」マネージング・ディレクター(直接投資)/[2004年]国会副議長/[06年7月](第2次リー・シェンロン政権)国務相(通産)/[08年4月]上級国務相(通産)/[09年4月]上級国務相(教育・通産)/[11年5月]首相府相兼第二内相兼第二通産相/[15年9月総選挙]国会議員に再選(5期目：ウェスト・コースト集団選挙区、[10月1日](第4次リー政権)通産相(産業担当)/[18年5月1日]情報通信相(一現在)【家族】ケイ(Kay Mary Taylor)夫人との間に2男1女。

《ブルネイ》

■通信相 Minister of Communications

アブドゥル・ムタリブ・ユソフ Abdul Mutalib Mohd Yusof

ボルネオ王国(首相)が今年1月末に(内閣の5年任期の満了を待たずに)実施した異例の内閣改造で首相府事務次官から現職(通信相)に昇格。通信省の事務次官を務めた経歴もあり、通信省の実務には精通している。

*2011年に日本外務省の招聘事業「21世紀パートナーシップ促進招聘」プログラムで来日し指導者研修を修了した。

▼データ：【年齢】47歳(1971年3月9日生まれ)【学歴】ブルネイ・ダルサラーム大学卒(経営学士：優等)/(豪)メルボルン大学国際経営学修士(MIB)【経歴】情報通信技術産業公社(AITI)で要職を歴任/[2006年]AITI専務理事代行/[07年]首相府計画・電子政府(e-Gov)・メディア局長/[08年]通信省副事務次官/[09年]首相府副事務次官/[10年]通信省副事務次官/[13年4月]通信省事務次官/[15年11月]首相府事務次官(メディア・内閣連絡業務担当)/[18年1月30日](内閣改造)通信相(一現在)【家族】ノラ・タヒル(Nora Tahir)夫人との間に子供7人。

《フィリピン》

■情報通信技術相代行

Acting Secretary of Information and Communications Technology

エリセオ・リオ(二世) Eliseo Rio Jr.



昨年9月にロドルフォ・サラリマ(Rodolfo Salalima)情報通信技術相が辞任したことに伴い、情報通信技術相代行筆頭次官(OIC)を経て、今年5月に現職(情報通信技術相代行)に任命された(サラリマ前情報通信技術相の辞任は不正疑惑による事実上の解任とみられている)。

*現役軍人時代の大半を技術将校として軍事通信・電子・情報システムの整備・構築に尽力。また、ドゥテルテ政権発足後の情報通信技術省次官(特命担当)当時は、サイバーセキュリティ政策策定や緊急通信システムの構築などを担当した。

▼データ：【年齢】74歳(1944年10月27日生まれ)【生地】(西部ビサヤ地方)カピス州タバス【学歴】イースト大学卒(電子・通信工学)/フィリピン大学(UP)工学士(電気工学)/フィリピン陸軍尉官課程修了/電子技術者免許取得(国家試験4位合格)/アテネオ・デマニラ大学電子工業課程修了【経歴】退役陸軍准将【経歴】国軍研究開発センター技術将校/国軍士官学校教官/[1988年]国軍情報機関(ISAFP)電子技術情報群群長/[92年]駐マ

レーシア駐在武官/[95年]陸軍参謀長補(通信・電子・情報システム)/[98年]国軍指揮幕僚大学司令官/[99年]国軍通信・電子・情報システム本部(AFPCISS)本部長(准将)/国軍参謀次長(通信・電子・情報システム)/[2000年10月]国軍退役/[2001年2月](アロヨ政権)国家電気通信委員会委員長(一02年10月)/[04年11月]通信大手「バヤン・テレコミュニケーション」社外取締役などICT関連民間企業の社長、役員、コンサルタントなどを歴任/[16年9月](ドゥテルテ政権)情報通信技術省次官(特命担当)/[17年10月10日]情報通信技術相代行筆頭次官(OIC)/[18年5月11日]情報通信技術相代行(一現在)【家族】ロサリンダ(Rosalinda P. Rio)夫人との間に1男2女。

《ベトナム》

■情報通信相 Minister of Information and Communications

チュオン・ミン・トゥアン Truong Minh Tuan

2016年4月発足のグエン・スアン・フック新首相率いる現・ベトナム第4期内閣で情報通信省次官から現職(情報通信相)に昇格。インターネットやソーシャルメディア(SNS)上の情報規制・管理が業務の「優先事項」と公言している。

*人民軍の政治担当将校から党中央の思想教育・宣伝部門で要職を歴任。

▼データ：【年齢】58歳(1960年9月23日生まれ)【生地】(中部高原)ラムドン省【政党】ベトナム共産党(CPV)：中央委員【学歴】政治学博士【経歴】人民軍将校(政治担当)/国防省技術総局武器弾薬技術学校講師などを歴任/(北中部)クアンビン省党委員教育部副部長/[2002年]中部・ダナン市思想文化局長/[06年]党中央宣伝教育委員会宣伝教育管理情報センター所長/[11年8月]党中央宣伝教育委員会副委員長/[14年2月]情報通信省次官/[16年4月9日](第14期内閣)情報通信相(一現在)。

《カンボジア》

■郵便・電信相 Minister of Posts and Telecommunications

トラム・イウテック Tram Iv Tek

2016年4月に実施された、第4次フン・セン内閣の内閣改造で公共事業・運輸相から現職(郵便・電信相)に横滑り。

▼データ：【年齢】69歳(1948年11月30日生まれ)【政党】カンボジア人民党(CPP)：中央委員【経歴】[1993年](カンボジア王国政府)公共事業・運輸省次官/[98年11月]公共事業・運輸省次官(再任)/[2004年7月]公共事業・運輸省次官(再任)/[08年9月](第3次フン・セン政権)公共事業・運輸相/[18年9月6日](第5次フン・セン政権)郵便・電信相(一現在)。

《ラオス》

■郵便・電信相 Minister of Posts and Telecommunications

タンサマイ・コンマシット(博士) Dr. Thansamay Kommasith

2016年4月に第8期第1回議会での承認を得て成立した、トンルン・シースリット(Thongloun Sisoulith)首相率いる現内閣で現職(郵便・電信相)に起用された。前郵便・電信省次官。ラオス人民革命党(LPRP)中央委員。

《ミャンマー》

■運輸・通信相 Minister for Transport and Communications

タン・ズィン・マウン U Thant Sin Maung

2016年3月に成立した、アウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相を実質的な最高指導者とする現「国民民主連盟(NLD)」政権で現職(運輸・通信相)に就任。元ミャンマー鉄道公社ジェネラル・マネージャー(総裁に次ぐポスト)で、ICTというよりは運輸行政の専門家。

*2017年12月に開催された前回(第17回)のTELMINには、チョー・ミョー(U Kyaw Myo)副運輸・通信相がミャンマー代表として出席。

▼データ：【年齢】65歳(1953年11月15日生まれ)【生地】ザガイン管区モンユウ【政党】国民民主連盟(NLD)【学歴】ラングーン芸術科学大学(現ヤンゴン大学)理学修士(数学)【経歴】バセイン(現パテイン)大学教授/ラングーン芸術科学大学教官(数学)/ミャンマー鉄道公社(MR)入社、要職を歴任/MRジェネラル・マネージャー/定年退官/[2015年11月8日総選挙]国民代表院議員に当選(NLD：ザガイン管区区域モンユウ選挙区：入閣に伴い資格消失)/[16年3月30日](ティン・チョー政権)運輸・通信相(一現在)【家族】キン・タン・エー(Khin Than Aye)夫人との間に子供3人。

(アジア・リンクエージ 勝田 悟)